

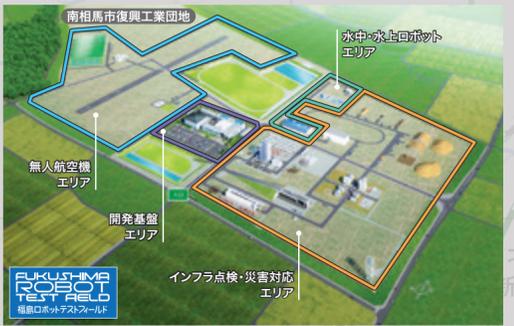
浜通り地域等の産業基盤を構築する国家プロジェクト

福島イノベーション・コースト構想拠点マップ

世界に類を見ない一大開発実証拠点

福島ロボットテストフィールド

陸・海・空のフィールドロボットに対応する4つのエリアからなる、世界に類を見ない一大開発実証拠点。南相馬市復興工業団地内の東西約1,000m、南北500m、東京ドーム約10個分の広大な敷地を有します。また、浪江町棚田産業団地内に長距離飛行試験のため滑走路を設けています。この施設を中核として、浜通り地域等へのロボット産業の集積を図ります。



複合災害の記録と教訓を将来へ引き継ぐ

東日本大震災・原子力災害伝承館

福島県が経験した地震・津波及び原子力災害という未曾有の複合災害から経験と教訓を後世に継承し、国内外に発信する施設です。震災の資料を収集・保存し、展示するとともに、語り部の講話や、双葉町と浪江町沿岸部の被災地を巡るフィールドワークなどの研修プログラムを提供しています。さらに防災や復興に関する研究活動にも力を入れています。



12市町村への移住・定住を促進

ふくしま12市町村移住支援センター

東京電力福島第一原子力発電所の事故により避難指示等の対象となった12市町村への移住・定住を促進するため、2021年7月1日に福島県が設置しました。広域連携や12市町村による移住施策の支援等を目的として、様々な事業を実施しております。



福島イノベーション・コースト構想に関する詳しい情報は <https://www.fipo.or.jp>



各拠点の情報は裏面をご覧ください

- 01 新地エネルギーセンター
- 02 新地アーバンデザインセンター
- 03 釣師防災緑地公園
- 04 新地町海釣り公園
- 05 相馬LNG基地
- 06 福島天然ガス発電所
- 07 福島県水産資源研究所
- 08 そうまIHグリーンエネルギーセンター
- 09 浜の駅川川浦
- 10 道の駅そうま
- 11 万葉の里風力発電所
- 12 道の駅南相馬
- 13 あずびと福島
- 14 浜地域農業再生研究センター
- 15 環境放射線センター
- 16 ハイテックプラザ 南相馬技術支援センター (福島ロボットテストフィールド研究棟内)
- ★ 福島ロボットテストフィールド
- 17 南相馬市産業創造センター
- 18 小高交流センター
- 24 福島水素エネルギー研究フィールド
- 25 福島高度集積製造センター
- ★ 福島ロボットテストフィールド (浪江滑走路)
- 26 道の駅なみえ
- 27 震災遺構浪江町立請戸小学校
- 29 福島県復興記念公園
- ★ 東日本大震災・原子力災害伝承館
- 30 双葉町産業交流センター
- 31 福島第一原子力発電所
- 32 JAEA大熊分析・研究センター
- 33 中間貯蔵工事情報センター
- 52 JAEA廃炉環境国際共同研究センター
- ★ ふくしま12市町村移住支援センター
- 55 東京電力廃炉資料館
- 57 ふたばいんふお
- 59 福島第二原子力発電所
- 60 笑ふるタウンならは
- 62 榎葉町甘藷貯蔵施設
- 65 Jヴィレッジ
- 66 広野IGCCパワー合同会社
- 67 トロピカルフルーツミュージアム
- 69 ワンダーファーム
- 70 道の駅よつくら港



【発行】公益財団法人 福島イノベーション・コースト構想推進機構
〒960-8043 福島県福島市中町1-19 中町ビル6階
TEL.024-581-6893 FAX024-581-6898



「福島イノベーション・コースト構想」とは

福島イノベーション・コースト構想とは、東日本大震災及び原子力災害によって失われた浜通り地域等の産業を回復するために、新たな産業基盤の構築を目指す国家プロジェクトです。「炉炉」「ロボット・ドローン」「エネルギー・環境・リサイクル」「農林水産業」「医療関連」「航空宇宙」の各分野の具体化を進めるとともに、その実現に向けた「産業集積」や「人材育成」「交通人口の拡大」「情報発信」など多岐にわたる環境整備に取り組んでいます。

新地町

01 新地エネルギーセンター

新地駅周辺へ熱電供給を行う施設です。相馬LNG基地の天然ガスをコジェネレーションシステム、太陽光発電と合わせて、環境負荷の少ない熱電供給を行っています。

03 釣り師防災緑地公園

新地町の海沿いに広がる「防災」「交流促進」「防災アーカイブ」機能をテーマに子どもから大人まで楽しめる防災緑地公園です。子どもから大人までの個性あふれる遊具や国内最大級のポンプトラックが設置されており、バーベキューやキャンプも楽しめます。

05 相馬LNG基地

国内最大級の23万t地上式LNGタンクを2基としたLNG基地です。LNG輸送船が接岸できる専用岸壁などが整備されています。海外で調達したLNGガスの受け入れ・貯蔵・気化を行い、気化した天然ガスをパイプライン網に送出し、沿線に供給しています。

02 新地アーバンデザインセンター

東京大学大学院新領域創成科学研究科・国立環境研究所・新地町が協働で運営しています。公・民・学の組織がノウハウを出し合っており、まちの未来づくりを推進しています。

04 新地町海釣り公園

相馬共同火力発電所の温排水が釣りデッキの下から流れ、種類豊富な魚たちが集まる町営の釣り場です。

06 福島天然ガス発電所

世界最高クラスの発電効率でLNG気化ガスを電気に変えることができる発電所です。ガスタービン発電と気力発電を組み合わせたガスタービコンバインドサイクル(GTCC)方式を採用しており、59kWの出力を誇る発電設備2基で構成されています。

相馬市

07 福島県水産資源研究所

福島県の沿岸漁業再生に向け、水産種苗生産・供給及び沿岸漁業資源研究を行う拠点施設です。ヒラメやアワビ等の栽培漁業の推進や、カレイ類の資源管理の高度化といった新たな試験研究に取り組んでいます。

09 浜の駅松川浦

津波で壊れた海産物直売所の後継施設としてオープンした復興市民市場です。相馬沖産の水産物を始めとする地元の水産物の販売コーナーと、地元食材を提供する食堂を設けています。

08 そうまIHグリーンエネルギーセンター

相馬市と南相馬市が開発した施設です。太陽光発電、蓄電池、水電解による水素製造装置、燃料電池などの発電設備を備え、水素社会実現に向けた実証実験を行っています。また、オープンイノベーションの場として、先端技術の研究を行う研究機関や企業に情報提供を行う「そうまラボ」が併設されています。

10 道の駅そうま

体験実習館や物産販売施設などが併設された道の駅です。市内で収穫された農産物や特産品を取り揃えています。相馬藩第34代相馬行胤氏が営む牧場の牛乳をヨーグルトで作ったオリジナルソフトクリームが人気です。

南相馬市

11 万葉の里風力発電所

南相馬サステナジー(HSE)と南相馬市の地元企業4社が共同出資が建設した風力発電所です。合計出力は4基で約4.4MWです。

12 道の駅南相馬

関東大震災の第一報を世界に伝えた原町無線塔の跡地に立つ道の駅です。食堂・売店・休憩施設があり、季節を問わず家族で楽しむことができる高見公園が隣接しています。

13 あすびと福島

企業向け研修や小学生向け再生可能エネルギー体験学習など、各世代に合わせたプログラムを企画・運営しています。

14 福島県農業総合センター 浜地域農業再生センター

原子力災害により避難指示区域等となった12市町村の農業再開、農業再生に向けた実証研究や技術支援を行う拠点施設です。放射性物質の動態等の調査、除染後農地の地力向上、鳥獣害対策、作物の実証栽培など、幅広い研究を実施しています。

15 福島県環境創造センター 環境放射線センター

原子力発電所周辺部のモニタリングや安全対策を実施する施設です。浜地域農業再生センターと並び南相馬市が併設しています。

16 福島県ハイテクプラザ 南相馬技術支援センター

福島ロボットテストフィールド研究棟内にあります。ものづくり企業の技術力向上や新産業・新分野への参入支援を中心に活動しています。

17 南相馬市産業創造センター

貸事務所・貸工場棟の施設提供のほか、入居者の支援や、入居者と地元事業者等の交流など、ハードとソフトの両方から支援を行う施設です。南相馬市内の産業発展に必要な環境整備を推進し、新規事業に取り組む企業が創業しやすい環境支援と市内産業の発展を目指します。

18 小高交流センター

小高区の復興拠点施設です。地元出身者が営むテナントのほか、屋内遊び場や子育てサロンなどを自由に利用することができます。

19 セデツケかしま

常磐自動車道 南相馬鹿島サービスエリアに隣接する施設です。一般道からも利用でき、食事や買い物も楽しめます。コミュニティ広場やポータルプラザなどの休憩施設があり、また、様々な地域情報の発信を行っています。

20 いいいて村の道の駅 までい館

飯館村の復興拠点施設です。杉材をふんだんに使用した温かみのある空間で、地元の物産購入や食事・休憩を楽しむことができます。飯館村の基幹産業である農業の再生を目指した花卉栽培施設をはじめ、子どもたちの遊び場である「ふかの子広場」や、「ドッグラン」などの施設が併設されています。

21 道の駅かわまた

川俣町の特産品である絹製品や川俣シャモなど、様々な物産を販売する道の駅です。川俣シャモ料理が楽しめるレストランがあります。

川俣町

22 とんやの郷

山木屋地区の復興拠点施設です。日用品などの小売店や食堂、行政サービスコーナー、多目的ホールを備えています。

23 福島国際研究教育機構(F-REI)

2023年4月に国が設立し、浪江町の仮事務所より事業を開始。我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活向上に貢献する、世界に冠する「創造的復興の中核拠点」を目指します。

24 福島水素エネルギー研究フィールド(FH2R)

浪江町の棚田産地にある世界有数の水素製造拠点です。18万m³の敷地内に設置された20MWの太陽光発電の電力を用いて、世界最大級となる10MWの水素製造装置で水電解を行い、毎時1,200Nm³(定格運転時)の水素を製造し、貯蔵・供給します。

25 福島高度集積材製造センター(FLAM)

県産木材需要拡大及び林業再生を目的に、大断面集積材を中心とした高度な集積材を製造する施設です。

26 震災遺構浪江町立請戸小学校

東日本大震災及び原発事故により大きな被害を受けた請戸小学校を震災遺構として一般公開しています。災害の脅威や教訓を学び、後世へ伝える施設です。

27 道の駅なみえ

海鮮丼や「なみえ焼そば」を堪能できるほか、「無印良品」の出店、新鮮野菜や海産物など多様な商品を揃えています。また、鈴木酒造店の酒見初や大塚相馬焼の陶芸体験なども楽しめます。全国初となるボケモンでいっぱい「ラッキー公園」は子どもから大人まで大人気です。

28 ふれあいセンターなみえ

「心身健康な人たちがあふれる町づくり」を実現する拠点として、多様な世代の市民が健康増進、地域活性化など幅広く活用いただける施設となっています。

29 福島県復興記念公園

東日本大震災による被災者への追悼と鎮魂、震災の記憶と教訓の後世への伝承、国内外に向けた復興に対する強い意志を発信することを目的に整備が進められている公園です。中央付近には「国営追悼・祈念施設」を設置しています。

30 双葉町産業交流センター

双葉町の復興を牽引する中野地区復興産業拠点の中核施設です。東日本大震災・原子力災害伝承館や、福島県復興記念公園に隣接しています。飲食店や土産物店などが営業し、双葉町ならではの魅力が味わえます。双葉駅からシャトルバスを運行しています。

31 東京電力福島第一原子力発電所

東日本大震災の津波により電源を喪失し、放射性物質を放出しました。現在は様々な対策により周辺環境への影響は大幅に低減され、廃炉作業が進められています。

32 JAEA大熊分析・研究センター

原発事故で発生したガレキ類、焼却灰、水処理二次廃棄物等の分析を行う施設です。令和4年9月25日に完成、10月1日から本格稼働しています。

33 中間貯蔵工事情報センター

除染で発生した除去土壌などを最終処分するまでの間、「中間貯蔵施設」に関する工場の進捗や、安全への取組を発信する情報センターです。

34 大熊町産業交流施設

JR大野駅の西口に産業交流施設を整備中(2024年12月オープン見込)です。大熊町の事業の拠点としたい方のためのオフィスであると同時に、一般向けに開かれた多目的スペースでもあります。同工場には、商業施設や広場、社会教育施設もあわせて整備していく予定です。

35 大熊インキュベーションセンター

今後、大熊町から羽ばたいていく企業や、研究・開発の卵を支援・育成する施設です。貸事務所やシェアオフィスに加えて、どなたでも利用可能な交流スペースや会議室などを備えています。

36 ネクスファームおおくま

イチゴの養液栽培を行う100%大熊町出資の株式会社です。誰でも働ける農業を目指して、作業者の負担を減らし、生産性を向上させる作業工程を追究するとともに、放射性物質全量検査を結んだ安全安心イチゴを出荷しています。

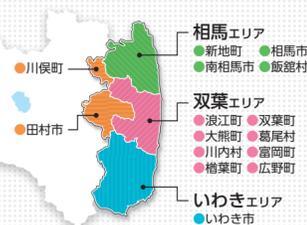
37 おおくまーと

大川原復興拠点には、商業施設「おおくまーと」をはじめ、交流施設「link」、宿泊施設「はつと大熊」があり、住民の交流の場となっています。

浜通り地域等15市町村に広がる

福島イノベ構想 拠点と復興関連施設

浜通り地域等 15市町村



葛尾村

38 大笹農場

全6棟の養鶏場で年間約53万羽のブロイラーを生産しています。エサやり・水やりから室内温度まで全てコンピューター管理で自動化しており、飼育中はほとんど人手がかけられない仕組みになっています。

40 復興交流館あぜりあ

葛尾村復興のシンボルの施設です。村民の交流活動を支援し、休憩や村の情報収集のために気軽に立ち寄ることができます。物産販売コーナーも併設しています。

42 テラス石森

廃校を活用したテレワークセンターです。サテライトオフィスや coworking space、人・企業・地域の交流の場として幅広く活用することで、新たなビジネス・雇用・職業の創出、働き方改革、学び・交流・情報発信の拠点を目指します。

44 田村市米流通合理化施設

主に避難解除区域における水田の営農再開促進を目的に、田村市が整備しJA福島さくらが管理運営する施設です。最大20,000束(1,200t)の玄米貯蔵をフレコンバックまたは袋体で行います。

46 田村市サツマイモ貯蔵施設

サツマイモ生産振興を目的に田村市が整備し、JA福島さくらが管理運営する施設です。サツマイモの貯蔵性を高めるキュアリング処理設備とサツマイモに適した温度湿度管理が可能な貯蔵設備を備えた施設です。

48 かわうちワイン

ワイン用ブドウ苗木は現在約12,000本あり、見晴らしい場所に立つワイナリーとブドウ畑は、川内村の新たなシンボルとなっています。おいしいワインを通じて川内村の新たな魅力の発信を行っています。

49 遠藤きのこ園

年間20万個の菌床を製造しています。菌床を管理するハウスではミストを自動噴霧し、温度・湿度を細かく調整することにより、肉厚で軟らかいシイタケを独自ブランド「ひたむき椎茸」として出荷しています。

52 JAEA炉炉環境国際共同研究センター

原子力発電所の廃炉措置を推進するため、国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築しています。

54 ふたば医療センター附属病院

福島県立医科大学の協力により、地域に必要な救急医療・在宅医療・健康増進支援などを提供しています。住民や復興事業従事者の方々の安心を医療面から支えています。

56 さくらモールとみおか

公設民営の複合商業施設です。ホームセンター、スーパーマーケット、ドラッグストア、飲食店がありまます。同敷地内には富岡町地域交流館「富岡わんぱくパーク」もあります。

58 リプルンふくしま

環境省が所管する特定廃棄物埋立処分事業の情報館です。放射性物質に汚染された廃棄物の埋立処分について分かりやすく学ぶ体験型の施設です。

60 笑ふるタウンならは

楳葉町の復興拠点として、交流館、商店街、災害公営住宅、診療所が集約されたエリアです。楳葉町における再生可能エネルギーを活用した災害に強く持続可能な低炭素なまちづくりの実証拠点でもあります。

62 楳葉町甘藷貯蔵施設

楳葉町が整備し、株式会社はらとが運営している施設です。甘藷の長期保存が可能となるキュアリング室と最大1,260tの甘藷貯蔵庫を備えた国内最大級の施設となっています。

64 JAEA楳葉遠隔技術開発センター

福島第一原子力発電所の廃炉作業に必要な遠隔操作機器(ロボット等)の開発・実証試験を行う施設です。一般のロボット等の開発実証試験、関連技術の人材育成の他、講演会・会議等にも利用することができます。

66 広野IGCCパワー合同会社

日本初のIGCC(石炭ガス化複合発電・543MW)商用設備です。石炭をガス化し、ガスタービン・蒸気タービンを組み合わせることで、従来型石炭火力と比較し高効率かつCO₂排出量低減(約15%)を実現しました。

67 トロピカルフルーツミュージアム

広野町の新しい特産品となるような希少な国産バナナなど南国フルーツを栽培しています。土日も販売しています。

69 ワンダーファーム

「五感を耕す。農と食の体験ファーム」をコンセプトにしたトマトのテーマパークです。マトの収穫体験や様々なトマト料理を堪能できるレストランが人気です。

71 福島県水産海洋研究センター

福島県の水産産業復興・再生に向け、放射能研究拠点を備えた研究施設です。福島県沖の漁介類の資源動向調査や、東日本大震災以降実施している放射能モニタリング検査を踏まえた県産魚介類の安全性を発信しています。

田村市

42 テラス石森

廃校を活用したテレワークセンターです。サテライトオフィスや coworking space、人・企業・地域の交流の場として幅広く活用することで、新たなビジネス・雇用・職業の創出、働き方改革、学び・交流・情報発信の拠点を目指します。

44 田村市米流通合理化施設

主に避難解除区域における水田の営農再開促進を目的に、田村市が整備しJA福島さくらが管理運営する施設です。最大20,000束(1,200t)の玄米貯蔵をフレコンバックまたは袋体で行います。

46 田村市サツマイモ貯蔵施設

サツマイモ生産振興を目的に田村市が整備し、JA福島さくらが管理運営する施設です。サツマイモの貯蔵性を高めるキュアリング処理設備とサツマイモに適した温度湿度管理が可能な貯蔵設備を備えた施設です。

48 かわうちワイン

ワイン用ブドウ苗木は現在約12,000本あり、見晴らしい場所に立つワイナリーとブドウ畑は、川内村の新たなシンボルとなっています。おいしいワインを通じて川内村の新たな魅力の発信を行っています。

49 遠藤きのこ園

年間20万個の菌床を製造しています。菌床を管理するハウスではミストを自動噴霧し、温度・湿度を細かく調整することにより、肉厚で軟らかいシイタケを独自ブランド「ひたむき椎茸」として出荷しています。

52 JAEA炉炉環境国際共同研究センター

原子力発電所の廃炉措置を推進するため、国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築しています。

54 ふたば医療センター附属病院

福島県立医科大学の協力により、地域に必要な救急医療・在宅医療・健康増進支援などを提供しています。住民や復興事業従事者の方々の安心を医療面から支えています。

56 さくらモールとみおか

公設民営の複合商業施設です。ホームセンター、スーパーマーケット、ドラッグストア、飲食店がありまます。同敷地内には富岡町地域交流館「富岡わんぱくパーク」もあります。

58 リプルンふくしま

環境省が所管する特定廃棄物埋立処分事業の情報館です。放射性物質に汚染された廃棄物の埋立処分について分かりやすく学ぶ体験型の施設です。

60 笑ふるタウンならは

楳葉町の復興拠点として、交流館、商店街、災害公営住宅、診療所が集約されたエリアです。楳葉町における再生可能エネルギーを活用した災害に強く持続可能な低炭素なまちづくりの実証拠点でもあります。

62 楳葉町甘藷貯蔵施設

楳葉町が整備し、株式会社はらとが運営している施設です。甘藷の長期保存が可能となるキュアリング室と最大1,260tの甘藷貯蔵庫を備えた国内最大級の施設となっています。

64 JAEA楳葉遠隔技術開発センター

福島第一原子力発電所の廃炉作業に必要な遠隔操作機器(ロボット等)の開発・実証試験を行う施設です。一般のロボット等の開発実証試験、関連技術の人材育成の他、講演会・会議等にも利用することができます。

66 広野IGCCパワー合同会社

日本初のIGCC(石炭ガス化複合発電・543MW)商用設備です。石炭をガス化し、ガスタービン・蒸気タービンを組み合わせることで、従来型石炭火力と比較し高効率かつCO₂排出量低減(約15%)を実現しました。

67 トロピカルフルーツミュージアム

広野町の新しい特産品となるような希少な国産バナナなど南国フルーツを栽培しています。土日も販売しています。

69 ワンダーファーム

「五感を耕す。農と食の体験ファーム」をコンセプトにしたトマトのテーマパークです。マトの収穫体験や様々なトマト料理を堪能できるレストランが人気です。

71 福島県水産海洋研究センター

福島県の水産産業復興・再生に向け、放射能研究拠点を備えた研究施設です。福島県沖の漁介類の資源動向調査や、東日本大震災以降実施している放射能モニタリング検査を踏まえた県産魚介類の安全性を発信しています。

富岡町

52 JAEA炉炉環境国際共同研究センター

原子力発電所の廃炉措置を推進するため、国内外の大学、研究機関、産業界等の人材が交流できるネットワークを形成しつつ、産学官による研究開発と人材育成を一体的に進める体制を構築しています。

54 ふたば医療センター附属病院

福島県立医科大学の協力により、地域に必要な救急医療・在宅医療・健康増進支援などを提供しています。住民や復興事業従事者の方々の安心を医療面から支えています。

56 さくらモールとみおか

公設民営の複合商業施設です。ホームセンター、スーパーマーケット、ドラッグストア、飲食店がありまます。同敷地内には富岡町地域交流館「富岡わんぱくパーク」もあります。

58 リプルンふくしま

環境省が所管する特定廃棄物埋立処分事業の情報館です。放射性物質に汚染された廃棄物の埋立処分について分かりやすく学ぶ体験型の施設です。

60 笑ふるタウンならは

楳葉町の復興拠点として、交流館、商店街、災害公営住宅、診療所が集約されたエリアです。楳葉町における再生可能エネルギーを活用した災害に強く持続可能な低炭素なまちづくりの実証拠点でもあります。

62 楳葉町甘藷貯蔵施設

楳葉町が整備し、株式会社はらとが運営している施設です。甘藷の長期保存が可能となるキュアリング室と最大1,260tの甘藷貯蔵庫を備えた国内最大級の施設となっています。

64 JAEA楳葉遠隔技術開発センター

福島第一原子力発電所の廃炉作業に必要な遠隔操作機器(ロボット等)の開発・実証試験を行う施設です。一般のロボット等の開発実証試験、関連技術の人材育成の他、講演会・会議等にも利用することができます。

66 広野IGCCパワー合同会社

日本初のIGCC(石炭ガス化複合発電・543MW)商用設備です。石炭をガス化し、ガスタービン・蒸気タービンを組み合わせることで、従来型石炭火力と比較し高効率かつCO₂排出量低減(約15%)を実現しました。

いわき市

69 ワンダーファーム

「五感を耕す。農と食の体験ファーム」をコンセプトにしたトマトのテーマパークです。マトの収穫体験や様々なトマト料理を堪能できるレストランが人気です。

71 福島県水産海洋研究センター

福島県の水産産業復興・再生に向け、放射能研究拠点を備えた研究施設です。福島県沖の漁介類の資源動向調査や、東日本大震災以降実施している放射能モニタリング検査を踏まえた県産魚介類の安全性を発信しています。

浪江町

23 福島国際研究教育機構(F-REI)

2023年4月に国が設立し、浪江町の仮事務所より事業を開始。我が国の科学技術力・産業競争力の強化を牽引し、経済成長や国民生活向上に貢献する、世界に冠する「創造的復興の中核拠点」を目指します。

25 福島高度集積材製造センター(FLAM)

県産木材需要拡大及び林業再生を目的に、大断面集積材を中心とした高度な集積材を製造する施設です。

27 震災遺構浪江町立請戸小学校

東日本大震災及び原発事故により大きな被害を受けた請戸小学校を震災遺構として一般公開しています。災害の脅威や教訓を学び、後世へ伝える施設です。